

1 単元名 なりきっておどろう

2 授業構成

(1) 教師と教材

本単元は、新学習指導要領第1・2学年の目標に次のように位置づけられている。

F 表現リズム遊び

- (1) 次の運動を楽しく行い、題材になりきったりリズムに乗ったりして踊ることができるようにする。
 - ア 表現遊びでは、身近な題材の特徴をとらえ、全身で踊ること。
 - イ リズム遊びでは、軽快なリズムに乗って踊ること。
- (2) 運動に進んで取り組み、だれとでも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。
- (3) 簡単な踊り方を工夫できるようにする。

低学年の児童は、音楽に合わせて体を動かすことが大好きである。低学年においては、恥ずかしくて踊れないという子どもが比較的少ないが、なかには「誰かに見られている」と意識をした途端、尻込みしてしまう子どもも見られる。そこでこれから実践する表現遊びにおいては、「遊び」に重点を置いて授業を組み立てていきたい。表現運動のよさは、器械運動や陸上運動などに比べると、子どもは能力差に関係なく活動することができる。自分なりの表現をすればよいからであり、一人でも表現できるしグループでもできる。グループで考えたり工夫したりする活動を通して、友達と一緒に学習する喜びも体験することができる。さらに、新学習指導要領では、中学年からの表現運動につながる能力として、次の3点を挙げている

- ① 即興的な身体表現能力
- ② リズムにのって踊る能力
- ③ コミュニケーション能力

本時の学習にあたっては、①を身につけさせる手だてとして、まず子どもに身近な動物を取り上げることで即興的な動きを引き出せるようにしていきたい。次に、②を身につける手だてとしては、子どもが乗りやすい軽快なリズムの音楽を使用するように努めたい。さらに、友達と調子を合わせて踊ったり、動きを見合って真似っこしたり、よりよい動きを見つけ合ったりする活動を取り入れることで、子ども同士のコミュニケーション能力を高めていきたいと考えている。

(2) 子どもと教師

本校では、体育科における育てたい資質・能力を次のように捉えている。

- ① 運動の特性にふれながら課題を解決する力
- ② 公正な態度や互いに協力して責任を果たす態度
- ③ 健康や安全に留意して運動することができる態度

これを受けて、それぞれの単元で育てていきたい資質・能力をより具体的にしながら学習を進めてきている。本学級の児童は、体育の学習を楽しみにしている児童が多い。しかし、休み時間の過ごし方を見ると、外で鬼ごっこやサッカーなど友達と活動的に遊ぶ児童と、あまり外に出たがらず時間をもてあましている児童とが、はっきりと分かれている傾向にある。今まで、体育では、遊具遊びや鬼遊び、水遊びを通して、友達とのかかわりを大切にしながら学習を進めてきた。表現リズム遊びは初めての領域とはいえ、保育園や幼稚園のときにダンスやお遊戯、手遊び歌を経験している。学習の導入でも恥ずかしそうにしている児童も若干いたが、多くは楽しそうに取り組んでいた。

そこで前時では、いろいろな動物になりきって踊る遊びを全員で一斉に行い、一体感を高めたい。また時には、鳴き声や効果音を出し合いながら全身でなりきって、子ども同士が自然に動物の世界に入り込

めるようにしたい。そして、なりきる楽しさを十分に味わわせたい。その気持ちこそが主体的な学びや「自らの個性」を見出し、「自分を生かす力」の育成につながっていくものとする。

(3) 子どもと教材

本時の学習では、いろいろな動物になりきって踊る活動(第3時)のまとめとして、まず全員で動きの特徴を思い出しながらかい踊りたい。そして全身で動きを捉え、なりきって踊る楽しさを一人一人に言葉かけをしながら思い出させ、本時への意欲を高めていきたい。さらに、自分たちで急変する場面を取り入れたストーリーを設定し、話や音楽に合わせた動きを工夫させていきたい。役割分担も展開によっては必要である。見つけたお話にそって一人一人が即興的に動きながらなりきる楽しさを味わう。そして、友達と一緒に場面を見つけたりお互いの発表を見せ合ったりすることで、学び合いはより活性化されていくだろう。一方で、苦手意識を感じている児童には、楽しみながら動物になりきって表現している児童の動きを参考にさせるようにしたい。また、グループ全体がアイデアに行き詰まった際には、どんな場面で、その動物はどんな気持ちなのかなど、イメージが具体化するように支援していきたい。友達とともにストーリーを考え、最後まで踊りきった達成感や満足感はいずれからの子ども達の「もっといろいろやってみたい!」という新たな意欲へとつながっていくはずである。

3 単元目標

- ・運動に進んで取り組み、だれとでも仲よく踊ったり、場の安全に気をつけたりすることができるようにする。(態度)
- ・表現遊びの基本的な動き方を知り、楽しく踊るための動きを選んだり、友達のよい動きを見つけたりする。(思考・判断)
- ・身近な動物などの様子や特徴をとらえて、そのものになりきって全身の動きで楽しく踊る。(技能)

4 単元計画(全5時間)

1	2・3	4(本時)・5
オリエンテーション ○学習のねらいや進め方を知り、単元の見通しをもつ。 ○どんな動物がどんな動きをするか、イメージする。 「どうぶつじゃんけん」	○いろいろな動物になりきって踊る。 ・跳びはねる動物 ・大きな動物 ・地面をはう動物 ・木に登りぶら下がる動物	○友達とすきな動物になりきって踊る。 ・二人組で ・グループでお話にそって、続けて

5 本時の学習について

(1) 本時の目標

○身近な動物になりきり、お話にそって全身で友達と楽しく踊ることができる。

(2) 期待される児童の様相

- A 自らが考えた動きを友達と教え合いながらお話のイメージを拡げ、全身で楽しく踊ることができる。
- B 友達と一緒にお話にそった動きを見つけたり、選んだりしながら楽しく踊ることができる。
- C 友達と互いの動きを真似し合いながら、調子を合わせて楽しく踊ることができる。

(3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇全体への支援 ◆個への支援 ●評価)

学 習 活 動	教師の支援・意図	評 価
1 全員で前時の動きを思い出しながら踊る。	◇跳びはねる, 這う, 木登りする, 大きくゆっくり歩くなど前時に出てきた動物の特徴を思い出しながら, 全身でなりきって踊る楽しさを, 言葉かけしながら思い出させる。	●全身で特徴を捉え, なりきっているか。
どうぶつになりきり、ともだちとお話にそって楽しくおどろう。		
2 本時の学習の流れを確認し, めあてをもつ。	◇本時はグループで急変する場面などを取り入れたお話にそって, 動物を表現することを伝える。	●友達と協力してお話づくりをしたり, 場面にそって即興的に踊ったりできたか。
3 お話にそって, グループ練習をする	◇事前にお話カードを書いておき, みんなが場面変化のイメージが共有できるようにしておく。 ◆気持ちの変化, 動く場所の変化, 速さの変化など, 動きを変化させるポイントに気づけるよう, グループ練習の際, 助言をする。 ◆イメージが持てずに動きが小さく単調になる児童には, 友達の真似をしてみるように助言をする。	
○うさぎの大冒険 楽しいお散歩→大きなへびに会う→川のかわりにひとつ跳び ○さるのおまつり わくわくしながら集まって→突然の大雨→木渡りしながら帰っていく ○ペンギンの運動会 よちよち行進→氷すべり競争→海に落ちて水泳大会へ ○犬の一日 楽しいお散歩→野原でのんびり→ネコの登場に大興奮		
4 グループで踊りを見せ合う。	○はじめは説明をしないで, どんな場面があるか見つけさせる。 ◇どんな場面の変化があったか, 友達の動きがどう変わったかに着目させるように声かけをする。	
5 本時の学習を振り返る。	○自分がかんばったところや友達の動きでよかったところ, 工夫していたところを発表し合い, 本時のめあてや学習態度について自己評価をし, 次時への意欲をもたせる。	●友達のがんばりや動きの工夫を進んで見つけ, 賞賛することができたか。